

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4 年 2月15日

事業所名 小池学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動スペースは適切に確保し、様々な活動ができるスペースも整えている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		行動面での配慮が必要な児童もあり、基準以上に配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		建て替え後全館バリアフリーとしている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		会議や個別対応の場面に応じて行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年度当初、希望や意向を文書にて確認している。また随時意向に対応している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページに載せている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		未実施
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		発達障害者支援センターに評価やアドバイス、コンサルを受けた。	オンラインを利用した専門研修も検討していく。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者のニーズを確認し、子どもの行動観察を行い、計画を立てている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		PEP-Ⅲ、S-M社会生活能力検査などを実施している。	継続して実施していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		リーダーが中心となって立案を計画し勤務の職員と打ち合わせしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節の行事なども取り入れている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休みの活動設定をしている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		感染対策のため、小グループと個別活動を組み合わせている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		スケジュールや役割分担をプリントアウトし、確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	全員での振り返りは難しいが、できる職員で行い、日誌等で共有している。	周知徹底できるような方法を検討する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録の具直しができるように作成し、情報共有に利用している。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		実施している。		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		実施している。	
関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		リーダー及び管理者が対応している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校とは管理者が毎日、また定期的に情報共有を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現在利用者なし。受け入れが必要な場合は事前の打ち合わせや情報交換は実施する。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		受け入れる場合は事前の打ち合わせや情報交換を実施している。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4 年 2月15日

事業所名 小池学園

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		依頼があれば提供していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		利用前に引継ぎを実施する。研修会に参加し知見を深めている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		コロナウイルスの感染拡大で実施できないが、今後、学園の行事等を利用し機会を検討していく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		管理者研修会等に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳での伝達や送迎のたびに口頭にて説明している。電話等で話を聞いたりし共通理解を図っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	保護者からの要望があれば検討する。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に個別に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者からの相談があれば助言を行っている。	相談支援事業所ともより連携していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		今年度はコロナ対応でできていないが、保護者の交流は検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情があれば即座に聞いて対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月のお知らせなどで情報を提供している。	
	35	個人情報に十分注意している	○		資料は鍵のかかる書架で管理している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		児童とは視覚支援などを活用し、コミュニケーションが図れるようにしている。また、保護者とは予定表や配布書類、連絡帳などを利用し情報の共有に努めている。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止している。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		職員、保護者にも周知している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		入所施設と合わせて訓練している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止研修を実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		入所児童に準じているが、対象となる児童はいない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		医師の指示書を栄養士、管理者、担当者で確認し、提供している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		日誌に記載して回覧している。年度末には取りまとめ周知している。	